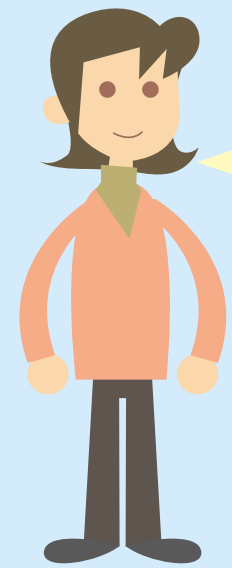


# 事例 4 Dさん

更生保護施設で受け入れ、日中は福祉を利用。出身地の福祉施設へ橋渡しを行う。



本人のニーズ  
就職して、  
母と子供と生活  
したい。

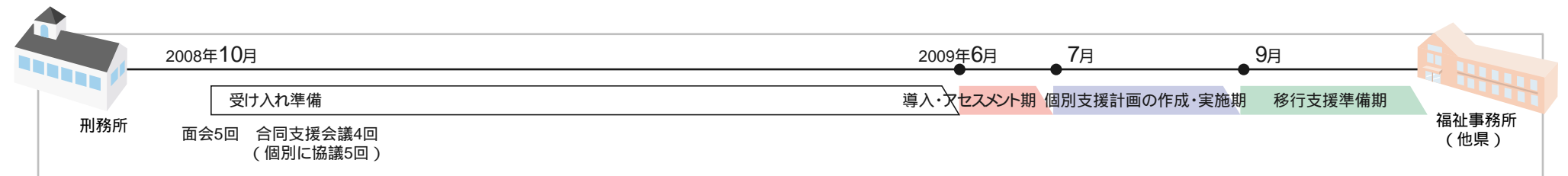
- 年齢(受け入れ時) 30代
- IQ 46
- 療育手帳 あり(B1)
- 罪名 建造物侵入、窃盗
- 刑期 懲役1年10か月
- 入所度数 初入
- 出所形態 身元引受人がいなかったため満期出所。

## 生活環境づくり

喫煙室を設け、火気の取扱い、約束事を設定。  
危険物の取り扱いの徹底、必要時に渡すように整理する。

## 受け入れ

更生緊急保護での受け入れ。  
他の福祉施設への移行準備が整うまでのシエルターとして更生保護施設を利用。



導入・アセスメント期	個別支援計画の作成・実施期	移行支援準備期
<p>環境の変化にともなう不安を軽減するように積極的なコミュニケーションをはかりレポート作りを行う。 更生保護施設職員とマンツーマンで日中生活をともに過ごし、行動特性の把握を行う。 特性と今後の進路を考え、どの日中系の福祉サービスにつなげるか検討。様々な福祉事業所の見学を行う。</p>	<p>福祉サービスの見学・体験実習を経て本人が納得して福祉サービスの選択をしていく。 見学体験実習においては、職員が引率し、環境になれるまで仲介をする(少しずつ支援の手を引いていく)。 人間関係の形成を重点的に支援(キーパーソンの見極め)。</p>	<p>移行先(他県)状況を想定し、グループホームでの実習を開始することで、円滑に移行していくための支援を行う。 移行先での見学を実施し、移行後のイメージを持ってもらう。</p>
<p><b>更生保護施設</b> (長崎県雲仙市)</p> <p>日中活動</p>	<p><b>就労継続支援B型</b> (雲仙市) 定員20名 職員4名</p>	<p><b>就労継続支援B型</b> (長崎県島原市) 定員10名 職員4名</p>
<p>職員配置</p> <p>Dさん 更生保護施設担当職員</p>	<p>職員配置</p> <p>Dさん 更生保護施設担当職員 職員 他利用者</p>	<p>職員配置</p> <p>通常の職員配置</p>
<p>活動内容</p> <p>施設内での活動</p>	<p>活動内容</p> <p>他の利用者との交流 野菜の収穫、植え付け 8時間働ける体力をつける 基本的な就労習慣を身につける</p>	<p>活動内容</p> <p>一般事業所(養鶏場)での集卵・液卵作り</p>
<p><b>生活の場</b></p> <p>まち郊外の丘陵 定員: 20名(男女混合) 職員: 2名</p> <p><b>更生保護施設</b> (長崎県雲仙市)</p>		<p><b>住宅街</b></p> <p>定員: 5名(男女混合) 職員: 1名(ケア職員付き)</p> <p><b>ケアホーム</b> (長崎県島原市)</p>
<p>職員配置</p> <p>Dさん 更生保護施設担当職員</p>	<p>職員配置</p> <p>Dさん 年齢性別共に様々な職員が関わる</p>	<p>職員配置</p> <p>通常の職員配置</p>
<p>生活支援</p> <p>基本的な生活習慣の見極め 様々なレクを企画 (社会勉強+レポート作り)</p>	<p>生活支援</p> <p>課題に対する改善指導 自主性を引き出し、余暇の過ごし方を支援。</p>	<p>生活支援</p> <p>地域社会のルールに沿って生活していけるよう支援する。</p>



**福祉との併用**  
日中活動及び、生活の一部は福祉事業所を併用して利用。本人の福祉的ニーズにマッチした支援が可能になる。

**キーパーソン**  
移行先の福祉事業所の施設長  
矯正施設入所中より2度面接し、本人を受け入れる準備があるから、その準備が整うまで更生保護施設にいて欲しいとの一言に本人は非常に感謝していた。移行先の福祉事業所の職員との関わりがあることによって、更生への意欲が高まったと思われる。

# アセスメント表

point 1

地域生活定着支援センターの支援で、矯正施設入所中に療育手帳取得。これまで福祉の支援の経験なし。

point 2

住居は廃墟状態にあり、母が住む地元への帰住を希望する。

氏名	Dさん <span style="color:blue">point 1</span>				男・女	障害基礎年金	有・無	①級・2級・申請中
療育手帳	有・無	等級	B 1	番号	精神手帳	有・無	等級	番号
身体手帳	有・無	等級		番号	IQ 相当値	46	障害程度区分	4
家系図					住宅	住居なし <span style="color:blue">point 2</span>		
	<p>家庭状況</p> <p>父は本人が20歳の時病死。本人に結婚歴はないが子供は1人。子供は農業手伝い先の男性との間に生まれた。子供は生まれてすぐに助産婦が手続きをしてくれて施設に入所している。本人は家族性の障がいと思われる。家族は現在入所施設や音信不通であったりと離散状態。帰る家や頼る家族がない。</p>				経済状況			
犯罪面								
罪名	建造物侵入、窃盗	刑名 刑期	懲役 1年10か月	刑期	年×月～年×月			
受け入れ日	2009年 5月	入所度数	初入	再犯期間				
犯罪の概要及び動機・原因	母の年金と兄の障害基礎年金で生活していたが生活費が足りなくなったので、住宅に侵入し現金を窃盗している。(合計72,000円)							
犯罪性の特徴	生活苦による現金盗み							
非行・犯行歴	1993年 母の年金(2か月で6万)と兄の障害基礎年金(2か月13万円)で生活していたが2か月目には足りなくなり住居侵入 罰金を支払っている 2004年 近所の電器ショップへ現金盗 執行猶予 その後本件に至り実刑							
中毒	中毒の有無(有【種類: _____】・無)							
反社会的集団との関係	反社会的集団との関係(有・無)							

## 支援の流れ




### 導入・アセスメント期

期間：2009年5月～6月

### 個別支援計画の作成・実施期

### 移行支援準備期

矯正施設入所中に療育手帳を取得しており、これまで福祉とは縁の無い生活を送ってきたため、福祉サービスに慣れる体験実習と本人の把握に努める。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>更生保護施設</b> (長崎県雲仙市) 定員20名 職員4名	 Dさん 更生保護施設職員	施設内での活動
 生活の場			基本的な生活習慣の把握 様々なレクを企画 (社会勉強+レポート作り)

#### 福祉事業所の見学と体験実習を実施

以前一人で就職活動を行ったが仕事が見つからなかった為、今後は福祉のサービスを受給しながら自立していく事を希望している。しかし、福祉サービスがどのようなものか経験も無い為、福祉のサービス自体を学習する必要があった。まず、移行先の福祉事業所へ円滑に移行できるよう、法人内の日中活動事業所の見学を行う。

自立訓練、就労移行支援、就労継続支援B型の4か所の体験実習を実施。本人の特性から短期間で環境になれる事が困難と判断し、更生保護施設職員も実習に入った。その間は、どのような特性があるか、どのような課題があるかを見極めていった。

#### ねらい 留意点

本人の意思を尊重するようにサポートした。体験実習を通して、スムーズな自己選択ができた。体験実習では、更生保護施設職員以外の目線も入るので本人の特性や課題を把握する上で効果的であった。

#### 更生保護施設の生活に慣れる

職員と一緒に日課を行いながら、本人の基本的な生活習慣を把握することに努めた。また、本人の心の壁を取り除き、レポートを形成していく為に、家庭的な雰囲気作りに努めた。

これまで「楽しみ」というものを味わったことがほとんどなく、まず余暇の充実に取り組んだ。季節を楽しむため蛍見学、温泉めぐり、苔や木々を使ったインテリアの作成、地域活動への参加(納涼祇園祭)等、回数を重ねるごとに笑顔が増え、自発的な発言も見られるようになった。

#### ねらい 留意点

対人関係や反社会的行動等の特徴については時間をかけて観察していく必要があった。

#### 職員の思い

更生保護施設としての初入所者であり、職員としてどのような対応をしていけばいいか、不安が尽きなかったが、本人を前にしてそのような不安はなくなった。このような人がどうして刑務所にいるのかと疑うようだった。受け入れてこれまで日々の生活に追われ、自分の将来に対する夢や人生の楽しみ等について考えることも無く、知的に障がいがあることを知らず、福祉と疎遠だった人生が如何に大変だったかを痛感した。二度と矯正施設に行くことがないよう支援していきたいと感じた。



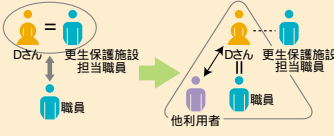



導入・アセスメント期

個別支援計画の作成・実施期

移行支援準備期

期間:2009年6月～9月

体験実習で出て来た課題点と今後の進路を踏まえ、日中は就労継続支援B型、夜間は自立に向けた改善を行う。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>就労継続支援B型</b> (雲仙市) 定員20名 職員4名		他の利用者との交流 野菜の収穫、植え付け 8時間働ける体力をつける 基本的な就労習慣を身につける
 生活の場	 <b>更生保護施設</b> (雲仙市)		課題に対する改善指導 自主性を引き出し、余暇の過ごし方を支援。

就労継続支援B型で就労の基礎を

本人の希望である就職と移行先の福祉事業所の利用を想定し、就労継続支援B型と契約した。

体験実習を通して見えてきた、①8時間働ける体力をつける事、②基本的職業習慣を身につける事を就労継続支援B型職員に申し送り、重点的に指導をお願いした。更生保護施設職員も定期的な巡回を行い、課題の改善を把握した。

3つの課題点の克服を目指す

基本的生活習慣は確立しており、施設内ではほぼ自立して生活できていた。

課題として次の3つが見えてきた( 困ったり、不安になった時、自分から相談できるようになる。女性らしさを身に付ける。③食事を自炊できるようになる )

については、適時、相談に来ることの大切さについて話をした。 については、日々の生活の中での指導と合わせ、職員同行で休日に買い物に行き、女性らしい服装、身だしなみについて指導を行った。③については、休日に自炊をした。メニュー決めから、食材の購入リスト、購入額と予算との関係の説明、調理実習を繰り返し行い、本人の苦手とする金銭管理や調理の学習を進めた。余暇活動は継続して実施した。







ねらい留意点

これまでの失敗経験の多さからか、苦手とする事への抵抗感が強かった。その為、個別支援計画の内容に対して嫌な顔をした。何故必要なのか、くり返して説明した。必要性を理解し、支援を受け入れた。

職員の思い

更生保護施設での生活は有期限となるが、その間、多くの人と接し、人間関係が広がるよう心掛けた。日中活動、更生保護施設での生活だけではなく、施設周辺の様々な社会資源を活用し、様々な体験をする中で、本人の心が成長し、社会へ適応していく力を養っていくと感じた。

移行先福祉事業所（他県）の内諾を得たことで移行支援準備期に入る。移行を想定しての実習を行う。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>就労継続支援 B 型</b> （長崎県島原市） 定員10名 職員4名	 通常の職員配置	一般事業所（養鶏場）での集卵・液卵作り
 生活の場	 <b>ケアホーム</b> （長崎県島原市） 定員5名(男女混合) 職員1名(ケア職員付き)	 通常の職員配置	地域社会のルールに沿って生活していけるよう支援する。

### 移行先福祉事業所の内諾を得たことでグループホーム実習へ

移行先の福祉事業所がグループホームでの受け入れを了承したことで、グループホーム体験実習を行った。受け入れ先は街の中にある、比較的自由的なグループホームという事で、それを想定し実習を依頼する。最低限のルールは守ってもらいながら、それ以外は職員の関わりをできる限り控え、本人の自主性に任せた。4泊5日の実習だったが、よい評価で実習を終える事ができた。

#### ねらい 留意点

移行先を想定し、日中活動・生活の両面にわたり、その環境に慣れていくように支援をする。更生保護施設職員は徐々に支援の手を引いていく。

## 支援のまとめ

- 1 日中は福祉事業所、生活は更生保護施設（途中からは福祉事業所）という、福祉と司法をまたいでの利用だった。矯正施設出所後、即福祉サービスへの移行が理想ではあるが、福祉サービス移行の手立ての手続きが途中であったり、福祉施設の受け入れにあたっての不安を軽減し、ゆるやかに福祉へつなげていく為にも、一時本人を更生保護施設で預かり、本人の社会内での行動特性を把握した上で、受け入れを検討していく方法は福祉サイドにとってもメリットは大きい。

#### 職員の思い

Dさんが更生保護施設で過ごした数か月間。短い期間ではあったが、本人が移行日前日の送別会に涙と共に見せた表情は本当に幸せそうだった。矯正施設時での面接では決して見せる事がなかった表情だった。数か月という短い期間だったが、自分の将来に希望を見出せた事は非常に良かったと思う。

移行先での最後の別れでは大粒の涙と共にお世話になったことの感謝の気持ちを示してくれた。更生保護施設職員としても、支援できたことを誇りに思い、今後のDさんの人生が幸せであるようにと心から思った。